

## 第十五回南のシナリオ大賞

### 優秀賞

#### 返事しろよ

「返事しろよ」 あらすじ

藤沢拓実（34）のすることに文句ばかりの妻の汐里（29）。二人の会話は噛み合わない。

苛々とした拓実は、汐里が長崎旅行で買ったオルゴールをうっかり壊してしまう。

そんな時、会社の後輩の水野真衣（28）を連れて、拓実は仕事で長崎を訪れた。拓実に思いを寄せる素直な真衣に拓実の心は揺れる。

拓実は五年前に汐里がオルゴールを買った時計屋を一人で訪ねた。壊れたオルゴールの修理に来たのだ。店の変わらない佇まいに懐かしさを覚えたが、同時に五歳になった店主の孫の姿を見て時の流れを実感した。店主の娘は拓実と汐里のことを覚えていたが――。

汐里は五年前に観光バスの衝突事故で亡くなっていたのだ。帰宅した拓実は、文句を言う汐里の声が聞こえない静かな部屋で、汐里に語り掛けながらオルゴールのネジを巻く。すると、拓実の言葉に答えるように、オルゴールが優しい音色を奏でた。

玄関のドアが乱暴に開き、酔った拓実が廊下を歩いてくる。

拓実「ただいまあ……」

汐里「お酒くさっ！ 酔ってんの？」

拓実「ただいまって言ってるんだろ」

汐里「何時だと思ってるのよ！」

拓実がドサッとソファに倒れこむ。

拓実「はあく、疲れたあ」

汐里「ちよつと拓実！ そんなところに横になる前に上着脱いでよ！」

拓実「アッキー、テレビつけて」

テレビからバラエティー番組の笑い声

拓実「便利だよなあ、AIスピーカー。言えば何でもやつてくれるし。文句も言わないし最高だよなあ」

#### 登場人物

藤沢拓実（34）

藤沢汐里（29）

水野真衣（28）

時計屋の店主（70）

千穂（37）

祐樹（5）

拓実が上着を脱いで放り投げる。

汐里「もう、脱いだ服くらい片づけてよね！」

テレビから笑い声。

拓実「あははは、汐里さ、この芸人好きだろ」

汐里「何よこのダンゴムシみたいなの！靴

下はちゃんと伸ばしてから洗濯機に入れて  
てって、何度言えばわかるの！」

拓実「あーあ、腹減った。メシはあ？」

炊飯器の蓋を開ける音。

拓実「あるわけねえか……」

缶ビールを開ける音。

拓実「はあ、沁みる〜」

汐里「酔っ払い！もう私寝るからね！」

テレビの笑い声が大きくなる。

拓実「うるせえなあ」

拓実がテレビに本を投げつける。

拓実「クソつまんねえんだよ！」

ガタンと何かが落ちる音。

拓実「やべッ、壊れてねえよな？」

オルゴールのネジを巻く音。

拓実「なあこれ、汐里が長崎で買ったやつ。

大した値段もしねえのにすげえ迷うから、

あの時も喧嘩したな。帰りのバスも、ずっ

と口をきかなくてさ。でもさ、一時間以上  
も待ったんだぜ。早くしろって文句の一つも  
言いたくなるだろ」

オルゴールがゆっくりと数音鳴る。

拓実「おーい、無視すんなよ。酔っ払ってねえ  
よ。何か言えよ」

オルゴールがジジと音を立て止まる。

拓実「あーあ、これも壊れちまったぞ……」

路面電車が走る。

真衣「……ねえ、拓実さんってば！」

拓実「あ、ごめん、何か言った？」

真衣「長崎に出張なんて珍しいねって」

拓実「ああ疲れたな。でも水野が来てくれて  
助かった。用意してくれた資料のお陰で契

約の話もうまく進みそうだしさ」

真衣「私はちよつとラッキー」

拓実「え？」

真衣「二人で旅行してるみたいでしょ」

拓実「水野 あのださ たまたま山崎がインフル

になったから、その代わりで水野に手伝っ

て貰っただけで、俺らの関係とは関係な

いって言うか……」

真衣「関係ない関係？ うちらどんな関

係？」

拓実「突っかかるなよ……」

真衣「わかつてますって。どうせこの前のも

酔った勢いだっただんしょ」

拓実「あれは本当に悪かった」

真衣「ちゃんと付き合ってたよ」

拓実「え、それは……」

真衣「いや？」

拓実「え、だから嫌とかじゃなくてさ……」

真衣「じゃあ、今だけ奥さんのことちよつと

忘れるってダメ？」

拓実「え？」

路面電車の警笛の音。

真衣「少しだけ、ほんのちよつとだけは楽し

もうよ」

拓実「……じゃあ少しだけ、観光して帰

る？」

真衣「やったあ！」

繁華街の喧騒。

真衣「わぁ綺麗……」

拓実「ガラス細工か」

真衣「お土産に買って帰ろうかな」

拓実「誰に？」

真衣「証拠に」

拓実「証拠？」

真衣「こうやって一緒に歩いたことも、いつ

もの生活に戻ったら、もしかや夢だったか

なってるかもしれない。だからちゃんと

現実だったよって確認するための証拠」

拓実「なあ、何で俺なんかいいの？」

真衣「うーんでも好きになっちゃったから」

拓実「靴下、ダンゴムシだよ？」

真衣「靴下？ 何の話？」

拓実「何でもない」

真衣「あ、このオルゴール可愛い！」

オルゴールのネジを巻く音。

拓実「やめろ！」

真衣「え？ 何、どうしたの？」

拓実「あ、いや、あっちの店行こう？」

真衣「いいけど……」

二人、歩き出すが、すぐ立ち止まる。

拓実「俺やつぱり……。ごめん水野！ やつ

ぱり先に帰ってくれ」

真衣「え、ちよつと拓実さん？」

拓実「ほんとにごめん！」

拓実、走り出す。

拓実M「ガラス細工の看板が可愛いつて、汐

里が見つけたんだ」

拓実、息を切らして走る。

拓実M「まだ、同じ場所にあるだろうか」

店のドアを開ける音。

拓実M「大きなアンティークの置時計が目を

引くが、それ以外は何の変哲もない小さな

時計屋」

店主「いらつしやい」

拓実M「店主の低くて優しそうな声。変わら

ない。そうだこの店だ」

拓実「あの、これ修理できますか？」

店主「オルゴールね、見てみましょう」

オルゴールのネジを巻く音。

拓実「五年くらい前にこちらで購入したんで

す。でも棚から落としてしまつて、直ります

か？」

店主「そうですね……」

オルゴールがゆっくりと数音鳴る。

店主「ああ、壊れてはいませんよ」

拓実「本当に？ でも音が遅いし途中で止

まるんです」

店主「長い間使われてなかつたんでしよう。

この部品にオイルをさせれば大丈夫。すぐ直

りますよ」

拓実「よかつた……。あの、このオルゴールつて、何か珍しい物だったりしますか？」

店主「これ？ いや別に珍しい物ではないね」

拓実「そうですか……」

店主「残念そうですね？」

拓実「いえ、でも何か意味があつたら……」

店主「意味？」

拓実「あ、いえ、いいんです」

店主「特別な物なんですね」

拓実「え？」

店主「正直言つて、これは値段も手頃だしど

こにでも売つてるごく普通のオルゴールで

すよ。でも、こうしてわざわざ修理に来られ

た。きつと特別な物です」

拓実「わざわざつて言うか、たまたまです。仕

事で近くまで来たから寄つただけです」

店主「そうですか？ ……さあどうぞ、直り

ましたよ。試してみてください」

拓実「はい……」

拓実 オルゴールのネジを一回だけ巻いて止める。

店主「どうかしましたか？」

子供が走ってくる足音。

祐樹「おじいちゃん！」

千穂「祐樹だめよ。お客様がいるから」

祐樹「早くハンバーク屋さん行きたい！」

店主「わかった、わかった」

拓実「お孫さんですか？」

店主「ええ、娘と孫です。すみません騒がしくて。今日はこの子の誕生日でね。ハンバーグを食べに行く約束したんです」

拓実「ああそうか、五歳になると子供ってこんなに大きくなるんだ……」

千穂「どうして五歳ってわかったんです

か？」

祐樹「ねえ、おじいちゃん早く！ 早く！」

千穂「静かに！ お客様いるんだから」

拓実「気にしないで。僕はもう帰りますから」

店主「音、確認されないんですか？」

拓実「大丈夫です。あの、特別な物かわからないけど……これは証拠だと思います」

店主「証拠？」

拓実「はい、ありがとうございます」

ドアが開き、拓実が出て行く。

千穂「そうだ思い出した！ あのお客様

前に奥さんといらしたよね」

店主「そうだったか？」

千穂「祐樹が生まれたばかりの頃で、ちょうど奥さんもお腹が大きくて、赤ちゃんに

て、あのオルゴールを選んだのよ」

店主「お前よく覚えてるな」

千穂「だって忘れられないわよ、ニュース見て

驚いたんだもの。ほら、観光バスの事故があつたでしょ……」

拓実M「五年前、俺たちは長崎観光をして、些細なことで喧嘩して、口をきかないまま、乗っていた観光バスが衝突事故に巻き込まれた」

車のブレーキ音と激しい衝突音

拓実「汐里、おい汐里、大丈夫か！ なあ返事しろ！」

騒然とする人々。救急車のサイレン。

拓実M「乗客二人が死亡と報じられたが、死んだのは三人だ。俺たちの前の席に座っていた男性、汐里、そしてお腹の子」

玄関のドアが開き、

廊下をゆっくり歩き足音。

静寂。

オルゴールの音色が優しく響く。  
(了)

拓実「ただいま……」

拓実「なあ汐里、何か言えよ。上着片付け

静寂。

ろって、靴下はちゃんと伸ばしてから洗濯機に入れろって、文句言えよ！ そんな所で寝るなって、言えよ」

ドサツとソファに倒れこむ音。

で寝るなって、言えよ」

拓実「はあ、疲れた」

オルゴールのネジを巻く音。

缶ビールを開ける音。

拓実「なあ、返事しろよ」

拓実「アッキー、テレビつけて」

オルゴールが小さく鳴り始める。

テレビから笑い声。

拓実「汐里……？」

拓実「アッキー、テレビ消して」

オルゴールが曲を奏でる。

テレビが消えて、静寂。

拓実「好きな子ができたんだ。……つきあってみようかな……(フツと笑う)わかってる、

拓実「なあ汐里」

靴下はちゃんと片付けるよ」